

優秀賞

愛情のタンポポ

森 惇 千葉県松戸市 三十七歳

以前、義母と住んでいたことがある。私が病気となって働けなくなったことを知ると、「だったら来ればいい」と快諾して下さったからだ。義母はガーデニングが趣味で毎日庭の手入れをされていた。春になると玄関前はクロッカスやムスカリ、ハナニラ等の花々が咲き揃い、あまり外を出歩けない私にとっても憩いの空間となった。

ある日、花々を眺めていると、芝桜の横に一輪のタンポポが咲いていた。綺麗に区画された庭の片隅に、必死に根付いたタンポポの生命力に私は胸を打たれた。その力強さに感動した私は、義母にお願いをしてそのままにもらった。美しく植えられた花々の中に咲く一輪のタンポポが、社会から孤立して自宅療養をしている自分と重なり、私も私の花を咲かそうと勇気をもらっていた。

その後、病気のままだったが私は妻と引越し、義母の家を離れることになった。

あれから三年が経つ。未だ闘病生活が続くが、今年の春は最も調子を崩した。点滴生活が続き、生きる力が底を尽いた。そんな時に、義母から写メが届いた。そこには、芝桜と共に咲くあのタンポポがあった。メッセージには「惇君のタンポポ健在！見るたびに惇君の健康を祈ってます」とあった。

涙が頬を伝った。義母の優しさと深い愛情が沁み渡り、心底嬉しかった。そうだ、諦めちゃいけない。私も人とは違うけれども、あのタンポポのように生き抜こう。もう一度病と闘う力を取り戻した瞬間だった。